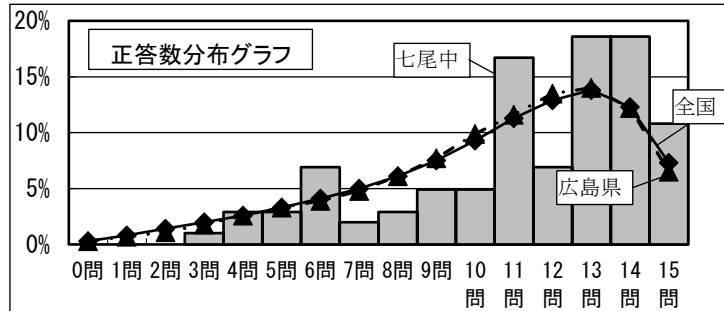


令和5年度 全国学力・学習状況調査等の結果と指導改善計画について

廿日市市立七尾中学校

国語

国語		
	平均正答率	平均正答数
本校	75%	11.3 / 15
広島県	70%	10.5 / 15
全国	69.8%	10.5 / 15



重点課題

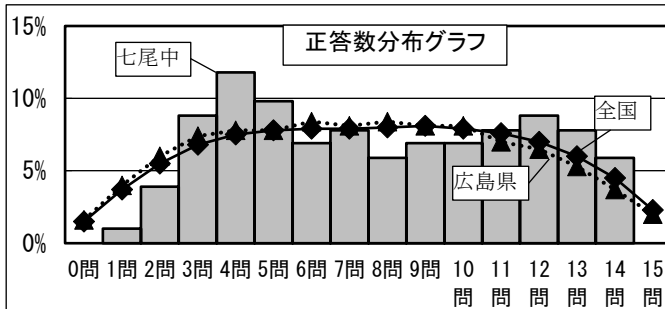
- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方を確かめて文章を整えること。(問題3 正答率 51.0% 全国 54.3%)
- ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。(問題4 正答率 58.8% 全国 50.0%)

課題に対する指導方法等の改善

- ・目的や意図を意識して文章の構成や表現の工夫を考え、書いた文章をお互いに読み合い指摘し合うことで、文章を整える授業を行う。(書くこと)
- ・観点を明確にして複数の文章を比較し、文章の構成や展開、表現の効果について批評する活動を行う。(読むこと)

数学

数学		
	平均正答率	平均正答数
本校	52%	7.8 / 15
広島県	49%	7.4 / 15
全国	51.0%	7.6 / 15



重点課題

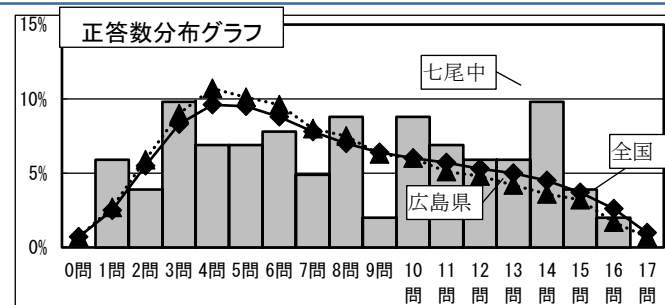
- ・選択肢の中にある数の中から、「自然数」をすべて選択する問題。(問題1 正答率 34.3% 全国 46.1%)
- ・度数分布表から累積度数を求める問題。(問題5 正答率 34.3% 全国 46.1%)

課題に対する指導方法等の改善

- ・自然数の定義を理解しておく必要がある。問題文がすべてを選ぶ問題であるから、1つしか選択しなかった可能性もある。数学は問題文を読まずに解答してしまう傾向にあるので、それを読むように指導していく。
- ・相対度数と累積度数の違いについて、例題を作って解きながら指導していく。累積の言葉の意味から、日常と関連付けながら指導していく。

英語

英語		
	平均正答率	平均正答数
本校	48%	8.1 / 17
広島県	43%	7.3 / 17
全国	45.6%	7.7 / 17



重点課題

- 「書くこと」の領域に課題がある。
- ・学校生活の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書くこと。(問題10 正答率 6.9% 全国 7.4%)
- ・与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させること。(問題9(1)② 正答率 12.7% 全国 20.9%)

課題に対する指導方法等の改善

- 「書くこと」の領域
- ・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを順序立てて書くことに課題があるので、モデル文を活用させたり、自分の伝えたい事柄を文章のどの部分に入れることが適切かを判断したりできるように指導していく。また、基本的な語や文法事項等を理解して正確に文章を書くことができるように、ドリル学習も引き続き行う。

生徒質問紙（生活・学習アンケート）

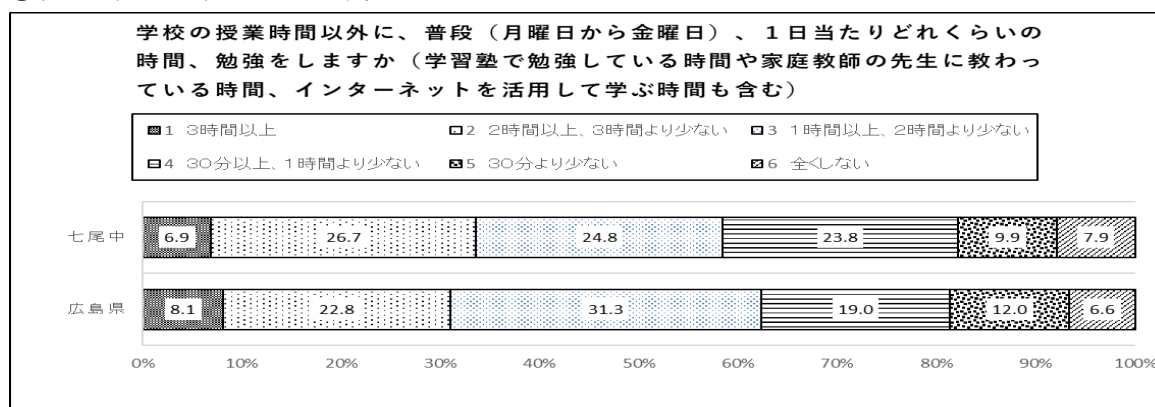
①とくに肯定的回答が高い数値のもの（昨年度の調査対象学年は、今年度とは異なる学年です。）

質問内容	解答類型	本校		広島県		全国	
		あてはまる	どちらかといえば	あてはまる	どちらかといえば	あてはまる	どちらかといえば
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	令和5年	65.3%	30.7%	42.7%	45.4%	40.0%	47.3%
	令和4年	45.3%	45.3%	43.4%	44.3%	39.9%	46.7%

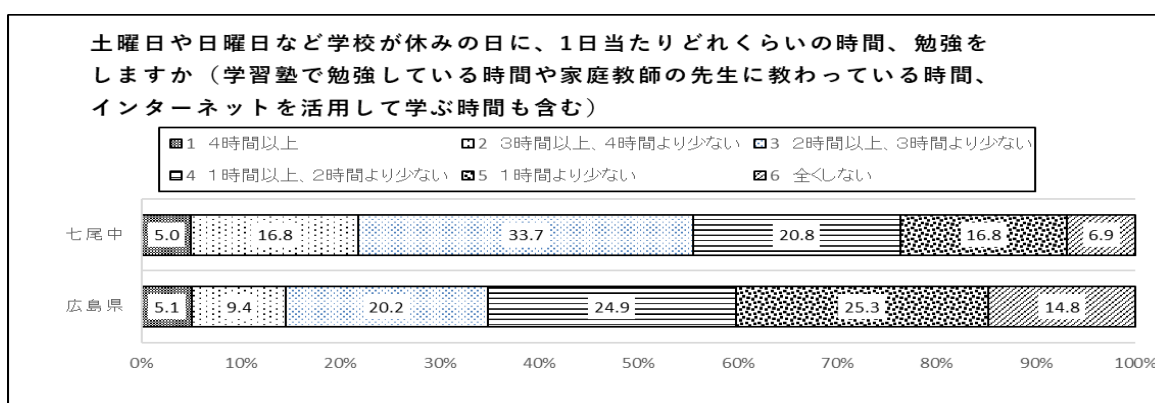
②とくに肯定的回答が向上したもの

質問内容	解答類型	本校		広島県		全国	
		あてはまる	どちらかといえば	あてはまる	どちらかといえば	あてはまる	どちらかといえば
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	令和5年	90.1%	8.9%	82.8%	13.2%	80.3%	15.2%
	令和4年	76.8%	18.9%	84.7%	12.0%	82.6%	13.8%

③普段（月～金）の勉強時間



④土曜日・日曜日の勉強時間



学習面・生活面の実態分析と今後の取組

全教科、県や全国の平均正答率を上回っており、力をつけてきている生徒が多い。しかし、正答数分布を見ると、中央より高い層（正答数が多い層）と低い層（正答数が低い層）に分かれており、学力差が生じていることが分かる。学校以外での勉強時間を見ても、平日「2時間以上がんばる」集団と、「30分以下」あるいは「しない」という集団に分かれている。受験を団体戦ととらえ、全員が学習に向かう雰囲気をつくり、1・2年の復習と入試演習問題を計画的にやるように指導することが必要である。

教員との関係や、いじめを許さない気持ち等も、昨年度とくらべて肯定的な回答が高まっており、自己肯定感や倫理観が上がっている。学校行事や生徒会の取組、ハートフルプロジェクト（各学級から『命の大切さ』を発信する取組）、道徳参観等、様々な行事を情操教育の場ととらえ、生徒の豊かな心を育てていきたい。